

令和元年度
(公社)日本ホッケー協会中学校部会
第2回常任委員会議事録



期 日:令和2年年2月15日(土) 13時00分～

会 場:埼玉県飯能市美杉台中学校 会議室

〒 357-0041 埼玉県飯能市美杉台 5 丁目 3 Ⅱ 042-983-0120

参加者 (敬称略)

中学校部会会長: 富田正孝 (滋賀県: 伊吹山中学校長)

中学校部会副会長: 三矢康仁 (静岡県: 清水中学校長)

中学校部会事務局長: 馬場治男 (埼玉県: 美杉台中学校)

会計: 北島沙紀 (埼玉県: 美杉台中学校)

事務局: 久保克敏 (京都府: 瑞穂中学校)

常任委員: 松村洋介 (東北) 大嶋寿美 (関東) 志田靖之 (北信越) 山本 誠 (東海)

道端良之 (中国) 岩尾幸美 (九州)

U-16 海外遠征事務局: 幸田伸也 (奈良県: 榛原中学校) 吉原荘二 (築館中学校)

.....

令和2年度全中大会事務局: 加藤和則 (静岡県ホッケー協会 理事長)

杉山龍児 (静岡県ホッケー協会事務局長)

文責: 久保克敏 (事務局)

常任委員会

・ 構成員: 15 名

・ 出席者: 13 名

規約 第 6 章 第 19 条に
則り本会は成立

1 開会

2 あいさつ

会に先立ち、富田正孝中学校部会長 (滋賀県伊吹山中学校長) にご挨拶をいただく。
次に、会場をお借りした埼玉県飯能市立美杉台中学校の齋藤校長先生よりご挨拶をいただき、会を開始した。

※協議順を時間の関係で変更して行う。

3 協議事項

- (1) 第 50 回全日本中学生ホッケー選手権大会 (静岡全中) について・・ (静岡県実行委員会)
・ 「実施要項」「競技運営規程」「会場関係」 別刷資料あり
・ 宿泊・弁当要項について など現在の状況を報告いただく

* 全中大会および 11 人制大会の宿泊についての留意事項

- ・ 大会期間中については、必ず大会事務局を通して宿泊申し込みをする。
- ・ 弁当については、以前より希望制としている。
- ・ 全中大会では大会初日 (開会式の前) に公式練習を設ける。

- ・ 中学校部会事務局からは、全国大会の開催継続を円滑に行うために、主催者である J H A からの補助金を増額し、開催地への経費負担を軽減する努力を行ない、次年度より現行 90 万を 180 万円に増額となる報告があった。

(2019.11.23_J H A 理事会にて承認)

(2) U-15 オーストラリア遠征について－報告－

資料 1-4 1-5

- ・今年度の遠征報告を女子監督、男子 HC より報告を受けた。
女子からは各ブロックのタレント事業に選ばれた選手が選考会に参加をしており大変喜ばしいことである。またその中で今年度も選手として選考され、活躍をしたという報告があった。
男子からは、今年度は各チームの主要な選手が MF (中盤) をしていることが多く、得点力に難があった。日本の決定力を上げるために FW の育成が大切であるという報告を受けた。
最後に海外遠征事務局より、13 回目を迎えた FHECUP も年々進化をしており、今年度は WA ホッケー協会の全面協力により大会が運営をされ、決勝は YouTube でライブ (生) 配信され、日本からも多くの保護者等が大会を見ることができた。今後も、FHECUP へ参加をしていきたいという報告を受ける。
- ・江副記念財団助成事業補助金について、次年度も U15 海外遠征の取組 (強化事業) の補助金として申請、獲得に努めていきたいと考えている。

(3) 全日本都道府県対抗 11 人制大会について

2019 年 (令和元年) で、福井県で行われている第 20 回全日本中学生都道府県対抗 11 人制ホッケー選手権大会の開催期限が終了した。昨年より 2020 年以降について、開催の場所を検討してきた結果、11 人制大会を福井県で 2 年間延長していただくことになったと事務局より報告があった。(R 2 年・R 3 年)

中学校部会側としての協力方法として、大会参加費を 10, 000 円増額する (大会参加費 40, 000 円)

その他、大会出場選手・スタッフの事前確認やプログラム作成にあたり中学校部会の協力、開会式の簡素化、U 1 5 のテント借用など具体的な調整を行っていく。

また、日本ホッケー協会からの 1 1 人制大会に対しての補助金の増額をお願いし、現行 6 0 万を 9 0 万円に増額することで決まった。(2019.11.23_ J H A 理事会にて承認)

今後の検討課題として、2 年後は、あらたに 11 人制大会を開催していただける場所を探さなければならない。2 年後に向けて動き出す必要がある。

(4) 令和元年度「事業報告」及び「決算 (中間まとめ)」について

資料 2-1 2-2

①令和元年「事業報告」～まとめ～

事務局より令和元年度の事業報告が行われ、承認される。

②令和元年「決算報告」～中間まとめ～

会計より令和元年度「決算報告」が行われ、承認される。

(5) 令和 2 年度中学校部会役員 (案) について

資料 3

事務局より次年度の役員体制 (案) の報告があった。

会長には、次年度全中大会開催地 (静岡県) より校長先生にお願いする。

副会長には、令和 3 年度全中大会開催地 (埼玉県) より校長先生にお願いする。

また常任委員、専門委員の交代について確認し、次年度ブロック常任委員、専門委員を変更する場合は、旧常任委員で責任をもって 5 月の常任委員会までに事務局まで連絡をすることを確認した。

特に、長年中学校部会を支えていただいた、事務局長の馬場先生より退任の申し出があり、次年度の執行部の検討、組織や役職の役割について考えていく必要がある。

(6) 令和2年度「事業計画(案)」及び「運営費予算(案)」について

資料 4-1 4-2

①令和2年度「事業計画(案)」について事務局より報告があり、承認される。

②令和2年度「運営費予算(案)」について会計より報告があり、承認される。

(7) 全国大会内規事項について

資料 5

- ・R2年度以降の全中大会開催地について事務局より提案があった。
R3年度の全中関東ブロック大会について、未だ決定できていない状況があったので、埼玉県にお願いをすることで一致した。しかし、大会まで約1年という急なお願いでもあるので、早急に対応をすることを確認した。
埼玉県側の懸念されていた人工芝の老朽化については、中学校部会の役員で現地に行き、確認をした結果、実施可能という結論に至ったが、埼玉県側には、人工芝の張り替え又は修繕に向けて、協力を願った。
R4年度は、東北ブロック開催で宮城県で決定している。
R5年度は、北信越ブロック開催となる。

- ・全国大会のシード権について確認をした。 <方法の確認(シードが9チームの場合)>

①昨年度の全中でベスト4に入った府県ブロックを先に分ける。

②その後、各ブロックのシード校をランダムに抽選する。但し、予選会を行わずに全中に参加をしている府県はシード扱いをしない。

よって、シードが9チームになった場合は1つのブロックの中にシード校が2つ入る所ができる。

例>来年度

具体的には・・・開催地枠と今年度のベスト4に入ったブロックは、同ブロックにシードチームが2つ入らないように抽選をする。

令和元年度男子ベスト4 優勝：伊吹山(近畿) 準優勝：今市(関東)
3位：朝日(北信越)、玖珂(中国)

R2 開催地枠 静岡(東海)

令和元年度女子ベスト4 優勝：大谷(北信越) 準優勝：伊吹山・虎姫(近畿)
3位：横田(中国)、石動(北信越)

R2 開催地枠 静岡(東海)



上記結果により、令和2年度の男子については、開催地枠と近畿ブロック、関東ブロック、北信越ブロック、中国ブロックの1位と開催地枠ブロックの5チームについては、先に抽選を行い、この5チームについては同一ブロック内に入らないようにする。その後、他ブロックの1位を抽選する。女子も同様に行う。

- ・決勝トーナメントの組み合わせ抽選について確認をした。
決勝トーナメントの組合せについては、全ての予選リーグの試合が終了した時点で抽選を行っている。次年度もこの方法でおこなう。
※今年度より導入した、「代理抽選依頼」は「0」であった。
- ・次年度全中各ブロック参加枠数の決定について
次年度の全中核部ブロック参加枠数について事務局より提案があった。
全国大会内規に則り、昨年12月末時点の登録チーム数(ブロックまたは県予選に参加をしているチームで「個人登録料」を支払っているチーム数による比例配分により参加枠を決定した結果が、次の通りである。

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催枠	優勝枠	合計
男子	0	3	4	3	2	4	3	1	2	1	1	24
女子	0	4	3	4	2	4	3	1	1	1	1	24

(9) 競技部・審判部より

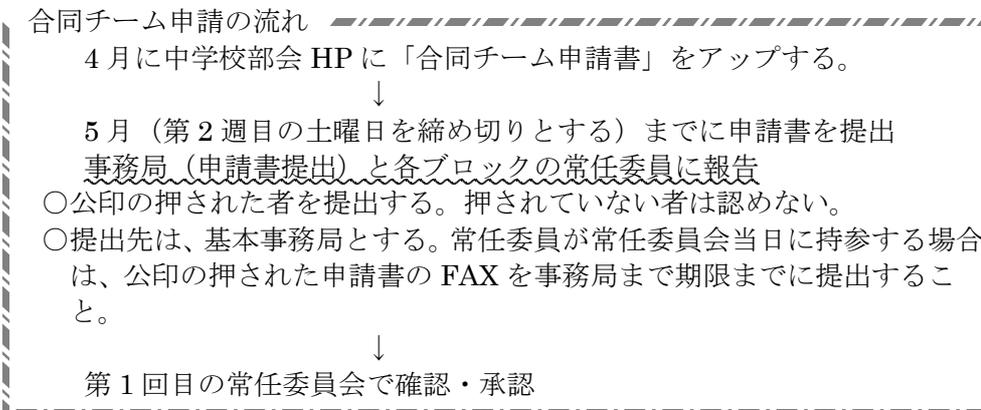
別紙資料あり

2月8日、9日におこなわれたルール研修会の伝達を馬場競技部長から報告があった。馬場競技部長よりこの研修を各ブロックで伝達するよう常任委員にお願いがあった。また、今後、中学校部会（中学校を指導していただいている先生方）から競技部と審判部に入っただけの人材を作るという課題は急務であり、各ブロック常任委員にお願いをした。

今回審判部については、現在奈良県のホッケー部のない学校に勤務をされている尾木先生に依頼し、異論なく承認された。

(10) その他

- ・合同チーム編成条件の再確認をした。以下が確認内容である
 - * 学校長の承認は必要。・・・学校管理下による大会実施を守る。
 - * 必ず教員による引率であること。
 - * 合同チームとして認められる範囲は、活動実績のある3チームまでとする。
 - * レンタルによる合同チームについては全中大会では認めない。



- ・ジュニアユース U15 日本代表チームについて
選考会、遠征の概要について現時点でわかっていることを海外遠征事務局より報告があった。
 - ・本年度は栃木県のホッケー場1面が張り替えを行われるため男女別会場で選考会を開催したが、次年度は栃木県で男女ともおこなう。
 - ・今後のU15/16（中学生世代）のタレント発掘の方法として、従来からの学校部活動やクラブチームによる選手育成過程での発掘に加え、潜在能力の高いタレントを広く募集し発掘していくようなJSCが推奨するような新たなパスウェイを模索していく必要があり、選考基準に明記していく方向を確認した。

- (1) 従来型のタレント発掘（学校部活動、クラブチームからのパスウェイ）
学校部活動やクラブチームにおいてホッケーを行っている選手を対象とした、従来型のタレント発掘、育成事業。
- ①地区（東・中・西）U15選考会による発掘→ブロック予選にて実施
 - ②全日本中学生選手権大会における発掘→大会優秀選手の選出にて実施
 - ③U15日本代表中央選考会による発掘
→代表に選考された男女各18名によりオーストラリア遠征を育成事業（国際競技力向上事業）として実施
- 更に、U15日本代表に選出された選手には、U18地区選考会（東・中・西の3地区により実施）への参加資格を与え、積極的に上のカテゴリーへのチャレンジを奨励。

- (2) 新たなアスリート育成パスウェイによるタレント発掘
学校部活動のホッケー部やホッケークラブに所属している者に限らず、ホッケーに適性を有する潜在能力（ポテンシャル）の高いタレントを見だし、優れたコーチングスタッフによる質の高い育成プログラムを提供するJSCが推奨するタレント発掘・育成プログラム（TID/Talent Identification and Development）との連携を行い、選考していくシステム。

※（1）と（2）両方でタレントを発掘していく

4 その他

- ・令和2年度第1回目の常任委員会で、「部活動指導員」導入についての提案を行うことを確認した。

5 閉会

閉会の前に、長年日本ホッケー協会中学校部会にご尽力をいただいた、中学校部会事務局長の馬場治男様より事務局長退任のご挨拶をいただきました。

（なおJHA理事としては今後もお世話になります。）

日本ホッケー協会中学校部会副会長三矢康仁（静岡県清水中学校長）様から閉会のご挨拶をいただいて、会を閉じた。